

# 英 語（リスニング）

## 第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

### 1 前 文

令和4年度大学入学共通テストの「英語（リスニング）」の受験者は、本試験と追・再試験を合わせて480,053人で、受験者全体の約98.3%に当たる。このことは、本テストの実施そのものや、問題の質や難易度、使用される言語材料が、受験者のみならず、全国の高等学校関係者及び英語教育関係者等、多方面に与える影響が非常に大きいことを意味している。追・再試験「英語（リスニング）」について検討・評価した項目は、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点についてである。また評価にあたり、以下の5つの資料を主に参考とした。

- ・高等学校学習指導要領解説（平成21年告示）外国語編・英語編
- ・令和4年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
- ・「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「英語表現Ⅰ」の検定教科書
- ・令和3年度大学入試共通テスト問題評価・分析委員会報告書
- ・令和4年度大学入学共通テスト「英語（リスニング）」（本試験）

### 2 内 容・範 囲

本試験と同様に「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅰ」で取り扱われる範囲からの出題であり、日常の問題から社会問題まで、幅広い分野における情報整理や話者の意図をくみ取って解答したり、講義等の内容と図表を統合して解答する問題であった。

第1問A 1文から2文程度の短い英文を聞いて、話者の状況や意思を正確にとらえて解答しなければならない問題である。英文は2回読まれ、かつ高校1年生程度の簡単な語句が使用されているので、難しい問題ではない。

第1問B 1文から2文程度の短い英文を聞いて、それが表している最も適切な絵を選ぶ問題である。前置詞の理解ミスで、正答率が若干落ちた問題もあるが、全体的には易しい問題である。

第2問 2人の短い対話とそれに関する問いを聞き、対話に合う最も適切な絵や図、または場所を答える問題である。button（ボタン）など、カタカナで日本語に入っている言葉を聞き取れる力も必要とされた。イラストや図などを瞬時に判断する力が求められるが、それほど難しい問題ではない。

第3問 男女2人の短い対話を聞き、問題文に書かれている問いの答えとして適切なものを選ぶ問題が6問出題された。日常生活の場面であり、問題冊子に状況が日本語で書かれているので、選択肢の違いを正しく理解すれば容易に解答できる。

第4問A 問18～21は、学校でのイベントのスケジュールに関する長めのモノローグを聞き、4つの絵を並び変える問題である。モノローグが、単純な時系列で展開されていないので、細部にまで注意して聞く必要がある。

問22～25は食品フェアにおける友人との会話で、友人からの説明を聞き、どの売り場に行けば良いかを答える問題である。2つの売り場に置かれている品物もあるため、各売り場の特徴を聞き取り、整理して解答を導く必要がある。

第4問B 4人の学芸員の説明を聞いて、指示されている条件に合ったツアーを選ぶ問題である。4人の話者の内容を正確に聞き取り、メモをとりながら条件を満たす最適なものを選ぶ力が問

われる。

第5問 ミツバチに関する長めの講義を聞き、その概要や要点をまとめる力が要求される問題である。1度しか読まれない中で、ワークシートの空欄補充や要約、そして講義内容と最後に提示されるグラフを照らし合わせて内容を問う問題になっている。難易度が高い問題だが、大学教育へ向かう基礎力を問う良問である。

第6問A 男女2人の長めの対話を聞き、要点を把握する問題である。息子の誕生日プレゼントについての会話で、それぞれの意見の内容を正確に把握して的確に答えを導き出さなければならぬ。

第6問B 4人による、電子書籍の賛否についての意見交換を聞き、最終的に電子書籍を支持する人数を答える問題と話者の1人の考えの根拠となる図表を選ぶ問題である。電子書籍か紙の書籍かという議論は現在よく聞かれるものであり、受験者には馴染みがあるトピックである。受験者には理解がしやすいものだったと思われる。

### 3 分量・程度

読み上げの回数は昨年度と同様、2回と1回の混在であった。大問数が6問、設問数が37問、解答数が37と問題構成も昨年と同様であった。音声についても昨年同様、イギリス英語や英語を母国語としない話者によるものも含まれていた。

第1問A 4問それぞれ短い英文を聞き、解答時間は約5秒。状況を判断し正しい選択肢を選ぶのに、2回の読み上げがあれば十分対応可能な内容であった。問3での想像力をもって状況を把握する力が問われ、やや難易度が高かったが、全体としては、おおむね日常生活に関連した基本的な状況設定であり難易度も適切である。

第1問B 3問それぞれ発話内容に対応するイラストを選ぶのに、2回の読み上げがあり、解答時間は約5秒。難易度からみて、第1問Aと入れ替えて、このBを最初の問題にするとリスニングの導入問題としてより適切であるかもしれない。

第2問 4問それぞれ日本語で示された場面の情報をもとに、対応するイラストや図の位置等を特定する問題で、それぞれ30語程度の対話であった。1つの対話の中で複数の情報を正確に聞き取るという点で、特に問10は、2回の読み上げはあったがやや難易度が高かった。解答時間約5秒。

第3問 6問が出題され、それぞれ約50語程度の対話で、解答時間は約6秒。流れる音声は1回だが、日本語で場面の情報が示され質問の英文も書かれており、受験者の対応は十分可能であったと思われる。問16については、2人のやり取りでは、提案に否定的に答えながらも賛成しているという点で、受験者にとっては難易度があがったと考えられる。また、問17については、正答については対話の最初で判断できるため、問いのさらなる工夫があってもよかった。

第4問A 問18～21では、90語程度のモノローグによる出題であった。問題文と図表を読む時間は約10秒、約40秒の英文を聞き取り、解答時間は約10秒。受験者が考える時間の設定は時間的に適切にされていて、内容も学校生活に関わる身近なものであったが、イベントのスケジュールの中の順番についての変更を聞き取るのは難易度が高かった。問22～25では、80語程度のモノローグが出題された。食品の種類がそのまま説明されているものは平易であったが、食品の種類が判別しにくい場合や、売り場の分類が複雑である選択肢等が難易度をやや高めた。

第4問B 1人当たり40語程度の、4人によるモノローグが出題された。読む時間は約18秒、約40秒の英文を聞き、解答時間は約30秒。示された状況と条件を読む時間が適切に設定されていた。彫刻を表すsculpture等の語彙が未知であることも想定されるが、日本語で示された状況や

条件のなかに情報として含まれていることも助けになったと思われる。標準的な難易度であった。

第5問 語数は250語程度、約2分40秒の長さのミツバチの講義が出題された。講義が始まる前に状況、ワークシート、問い及び図表を読む時間が約50秒あり、前半終了後に1分程度の解答する時間が設けられている。続きの音声である後半は25秒程度のもので、その後は30秒の解答を選ぶ時間が設けられていた。講義の長さ、考える時間は十分で適切であった。馴染みがあるミツバチのトピックであったものの、難易度は高かった。具体的には、問28～31に関しては、様々な情報についてまとめる必要があり、難易度が高いものも含まれていた。特に問29は Domesticated honeybeesの減少理由が2つ述べられたが、その一つのみが言い換えられた選択肢であったため、難しいものになった。問33についても、続きの音声を聞き、前半とグラフを関連付けるもので、リーディング問題にもなりうる難易度と言える。

第6問A 語数は160語程度、約1分間の夫婦の対話の出題。状況と問いを事前に読む時間は10秒取られた。対話を聞いた後の解答時間は20秒あり、適切であった。二人の異なる意見を聞き、発話者の意図を掴む問題である。分かりやすいトピックであったため、難易度としては標準的であったと思われる。

第6問B 語数210語程度、約1分30秒の4人の会話の問題。会話の前に状況と問いを読む時間が約10秒取られた。会話を聞いた後の解答時間は約30秒あり、適切であったと思われる。電子書籍についての意見交換で、受験者のトピックへの親和性があったと推察される。多様な英語の話者である4人の声の識別は容易で、話すスピードも適切であるため難易度は標準的であった。

#### 4 表現・形式

第1問A 短い英文が流れ、選択肢にも平易な表現が使われていて、2回聞けるため比較的容易だが、場面設定を把握し状況を判断する力も必要とする良問であった。問2は、呼びかけの位置が変わっていたら、文の切れ目が分かりやすくなっていたかもしれない。問3では、実際に相手と対面で話しているのか電話越しなのかの判断に迷い、状況把握できずに誤答を選択したと思われる。

第1問B 状況に合うイラストを選択する問題であり、イラストもおおむね分かりやすいものであった。問6については、音声面では平易であったため解答については問題はなかったが、問題の場面設定としては、実際の日常と結びつきにくい設定であると考えられるため、今後さらなる工夫が望まれる。

第2問 対話の場面が簡潔な日本語で問題冊子に示されていて、短い対話の後に流れる質問に合致するイラストを選択する問題である。おおむね、対話の流れからキーワードを聞き取り正答を選択できるよう工夫されていた。問10では、coatの代名詞thisと、ブーツの代名詞theseを正確に把握できなかったことにより誤答を選択した可能性がある。問11では、エレベーターのA及びBを示すイラストについて、エレベーターとA、Bが別に表示されているため分かりにくかったことも想定されるので、受験者により分かりやすい表示である工夫が望まれる。

第3問 対話の場面が簡潔な日本語で示され、質問の英語も問題用紙に書かれている。対話を聞き選択肢から解答を選ぶことに集中出来るため、1回読み上げではあるが、受験者にとって配慮は十分されていると言える。問15については、質問自体は平易であったが、やりとり全体のどの部分を解答すべきかを選択肢から適切に選択できなかった様子がうかがえる。問16では、二人のやりとりにおいて単純に賛成、反対という意見でなく、情報が補足されているため、表現を理解する難易度があがったと言える。問17では、内容をさらに具体的に問う設問が望まれ

る。

第4問A 問18～21では、イラストを時系列に並べ替える問題が出題された。聞いた英文の内容のイラストを適切に選び順番に並べるといった形式は受験者にとって馴染みがあるものであったと考えられるが、英文の内容において順序が捉えにくい箇所があったため難易度が上がったと考えられる。形式としては良問であり、受験者はbutやinsteadなどの個々の表現も聞けるように力をつける必要がある。問22～25では、世界の食品フェアにおける食品の陳列についての説明を聞き、表の中の空欄を埋める問題が出題された。聞こえる英文の内容にそって表を埋めていくという形式は、学校の授業等での日頃の言語活動において、聞いたことをまとめる、という統合的な力をつける必要があることを示している。

第4問B 状況と条件を読む時間が与えられ、音声は一度のみ流れる。状況と条件は日本語で示されていて、4人のモノログを聞いて条件にあてはまる選択肢を選ぶ問題である。条件にある「絵画と彫刻」について、モノログに“paintings”と“sculptures”が対となって何度か出てくるため、「彫刻」「sculptures」という理解がすずみ、内容把握の一助になったと考えられる。また、イギリス英語や英語を母語としない話者の音声も使われていることが、4種類の意見を聞きとることにおいてプラスに働いたとも想定される。

第5問 状況と設問を読み理解した上でモノログである講義を一度のみ聞き、ワークシートにメモを取りながら得た情報と概要をまとめ、設問に答える形式である。設問は、前半と後半に分かれている。前半は概要把握の確認となるワークシートを講義内容の流れに沿って埋める内容であり、取り組みやすい形式である。論理的に話される講義内容は、声の抑揚により強調される部分や話し方によりポイントが理解しやすいものである。しかし、難しい点はやや難しい語彙や文法表現も含まれた要約された選択肢を読むことにより、解答への負荷がかかったと考えられる。受験者の中には聞こえた単語が含まれる選択肢を安易に選ぶ傾向もあるため、正確に選択肢の意味を理解して答える力が求められる。また、後半はページも変わり、新たなグラフを目にしながら解答することになるが、講義の内容全体をしっかりと理解した上でグラフを見て正答を選ぶことになるため、記憶保持の観点から考えても難易度が高かった。

第6問A 状況と設問を読み理解した上で二人の対話を聞き、書かれた設問に最も適切な選択肢を選ぶ形式である。音声は一度のみ流れ、発話者の言いたいことを理解し設問に答える。夫婦の日常的な会話であるため、語彙表現は比較的平易である。双方の意見の中で最も重要な部分を答えるが、身近なトピックであることから取り組みやすく難易度もそれほど高くはなかったと思われる。会話で使われた言葉とは違う表現で言い換えられた選択肢を理解する力が求められた。また、双方の意見が最後まで合わなかったことを考えると、設問内のagree withの使い方に受験者が迷う部分があった可能性がある。

第6問B 状況と問いを読む時間が与えられた後、4人の意見交換を一回聞き設問に答える形式である。多様な英語話者間での会話で、言葉は友人同士が使う日常的なものであり、比較的語彙も平易なもので理解しやすかった。問36は電子書籍を支持した人の人数を答える設問で、中立の意見はなく容易に解答を選ぶことができたと思われる。問37は、一人の考えの根拠となる図表を選ぶ問題であり、様々な図表を見て解答を選ぶ。しかし、図そのもの以外にも図表の上にアンダーラインを引かれたタイトルがありヒントとして活用することができる。受験者の素早く情報を得る力が求められる問題である。

## 5 ま と め

聞こえてきた音声を文字通りに理解するだけでなく、状況に応じた含意をくみ取り理解する

力が求められ、思考力・判断力・表現力等を要する内容である。高校現場として、英語を実際のコミュニケーションで使う場面、状況を想定し、生徒自らがそれを体験するような統合した言語活動を行う授業設計を促進し指導の在り方を追求していく必要がある。

(1) 本試験との比較

共通テストにおいては、難易度や出題量、出題形式の相違が本試験と追・再試験との間で最小限であることが望ましい。平均点を見ても、また、問題を総合的に見ても、この点においては、本試験と追・再試験のいずれの受験者においても有利・不利な状況が生じるような大きな相違点はなく、釣り合いの取れた問題だった。

(2) 形式等の特徴

実施時間は30分、1問あたりの配点は1～4点の幅があり、読む回数は2回読み（第1問と第2問）と1回読み（第3問～第6問）に分け、満点は100点であった。昨年度に引き続き、本テストでは「リーディング」と「リスニング」がともに100点満点で構成されていたことから、より英語4技能のバランスを意識したものであったと評価する。また、設問や場面設定の指示が日本語で記載されている点は、測る力を「聞く力」に集約するための措置として有効であると考えられる。読む回数については、試験前半における2回読みについては、受験者の負担を考慮するとなされるべき配慮とも捉えることができる一方、聞く内容から判断すると、第2問における日常的な会話については読む回数を1回に、また、第5問での講義の内容を聞き取りワークシートや図表をあわせて答える問題については、読む回数を2回とすることも今後検討していくべきかもしれない。

(3) 学習指導要領との整合性

本テストでは、モノローグ、2人の対話、講義、4人の討論といった様々な場面や状況が設定された。またイギリス英語や英語を母語としない話者の音声も使われ、多様な話者による現代の標準的な英語が使用されている。学習指導要領に明記されているように、様々な英語が国際的に広くコミュニケーションの手段として使われている実態への配慮がなされていると評価できる。

(4) 高等学校の授業改善への影響

本テストでは、与えられた状況やコミュニケーションの場面における発話から情報を整理し、内容全体から話者の意図等を把握する、思考力・判断力・表現力等を問う出題が多く見られた。

授業では、様々なタイプの英語を聞いたり読んだりする活動はもとより、聞いたり読んだりした内容について話したり書いたりするような活動を十分に行うことにより、話される内容を一度で正確に聞き取る力の伸長が図られる。特に、本テストにおける第5問、第6問については、「聞く力」だけに特化した指導ではなく、残りの3技能と統合した言語活動を十分に行う必要があるというメッセージを伝える問題である。聞いた内容を別の表現で言い換えたり、まとめて表にするなど、具体的な指導方法の充実につながるものであった。

(5) 要望・提案

今後も、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）を参考に、各CEFRレベルにふさわしいテキスト作成と設問設定を行うことでA1からB1レベルに相当する幅広い題材を扱う問題の作成を願う。

内容については、受験者の身近な暮らしや社会での暮らしに関わる題材で、日常生活で用いられる自然な表現を採用したり、高校や大学生活等におけるコミュニケーションの場面や話者の多様性を想定する中で、例えば第1問のような短い英文であっても、より場面や状況を把握しやすい工夫を取り入れることを願う。また、受験者の持つ背景知識の程度により、聞き取る内容の理解に大きな差がでないようなさらなる工夫を願う。

また、第6問の間36にある賛成者、反対者等を問う設問においては、「2人が賛成」になりがちである。その対策として、中立の意見を持つ人物を設けることも可能ではないだろうか。または、賛成者全員を組合せで選ぶということも可能だろう。そのためにも、今回のように4人の登場人物の英語に多様性を持たせるなど、明確に区別できるような作問を希望する。

出題内容と設問数、配点一覧（\*は、全部正解の場合のみ点を与える。）

設問及び出題内容				設問数	配点				難易度
大問	中問	小問	出題内容概要		小問配点		配点		
第1問	A	1-4	モノログ(短):状況に合う短文を選択	4	7	4	16	25	☆☆
	B	5-7	モノログ(短):状況に合うイラストを選択	3		3	9		☆
第2問		8-11	対話(短):対話後の質問に合うイラストを選択	4	4	4	16	16	☆
第3問		12-17	対話(短):書かれた質問に合う答えを選択	6	6	3	18	18	☆☆
第4問	A	18-21	モノログ(中):イラストを	4	9	4*	4	12	☆☆
	A	22-25	時系列に並べる グラフと表への情報付加	4		1	4		☆☆
	B	26	モノログ(中):4人のモノログを聞き状況と条件に合う答えを選択	1		4	4		☆
第5問		27	モノログ(長):講義を聞き、ワークシートへの情報付加、要約選択	1	7	3	3	15	☆☆☆
		28-29		2		2*	4		☆☆☆
		30-31		2		2*	4		☆☆☆
		32		1		4	4		☆☆
		33		1		4	4		☆☆☆
第6問	A	34-35	対話(長):対話を聞き要約選択, 応答選択	2	4	3	6	14	☆☆
	B	36-37	対話(長):4人によるディスカッションを聞き賛否数, 意見を表す図を選択	2		4	8		☆☆
				37	100				